

平成 29 年度 学校評価

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月23日3月6日実施)	総合評価(3月9日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 幅広い学習ニーズに対応する多様な教育課程の編成をするとともに生徒主体の授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) 生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動を引き出す。また両校での交流を行う。</p>	<p>(1) ①新校の教務規定等の検討をする。 ②より生徒のニーズにあった学習支援のあり方を検討する。 ③協同的な学び推進チームを中心に生徒が主体となる授業づくりを組織的に取り組む。 ④新校に向けて自己表現検査の変更をする。</p> <p>(2) 行事等で生徒の主体的な活動を引き出す。</p>	<p>(1) ①両校で新校の教務規定等について検討する。 ②サポートティーチャー等を活用した日常の授業支援や補習を行う。 ③協同的な学び推進チームを中心に年間計画を作成し、協同学習を取り入れた授業づくりを推進する。 ④とりたい生徒像を明確にした自己表現検査に変更する。</p> <p>(2) ①生徒会を中心に生徒の主体的な活動を引き出す活動や行事を工夫する。 ②文化祭の出展内容等について工夫する。</p>	<p>(1) ①教務規定等の検討ができたか。 ②日常の授業支援や補習を実施できたか。 ③生徒が学び合う授業づくりができたか。 ④自己表現検査を変更できたか。</p> <p>(2) ①生徒が主体的に活動する活動や行事を行えたか。 ②文化祭の出展内容等を工夫できたか。</p>	<p>(1) ①移行期の評価や規定等についてのすり合わせを行った。 ②学習支援が必要な生徒の支援内容を確認してサポートティーチャーを授業に適切に配置し、支援することができた。 ③推進チームを中心に授業研究会のねらいを共有して全職員が授業を参観できる研究会を含め、年4回の授業研究会を実施した。 ④クリエイティブスクールが求める生徒を受け入れるために入学者選抜の自己表現検査を集団活動に変更した。</p> <p>(2) ①野球応援や荻野小での挨拶運動、壁の美化、学校新聞の復活等主体的な活動を引き出す機会を増やすことができた。 ②文化祭では学習発表、有志の活動発表など豊かな発想の企画が増えた。また新校に向け横須賀明光高校生徒の本文化祭での出展も実施できた。</p>	<p>(1) ①今後も新校教務規定等の策定を継続する。 ②学習支援の内容等についてサポートティーチャーとの情報共有が課題である。 ③よりよい授業を目指して授業のねらいを明確にし、指導法や教材等の共有化を一層図る必要がある。 ④意欲の評価が難しい。</p> <p>(2) ①委員会活動の活性化が課題である。 ②文化祭での本校の生徒の活動に加え、横須賀明光高校との交流を継続する。</p>	<p>(1) ③協同的学びに適する教材とそうでない教材があると思うので、十分に吟味して行う必要がある。</p> <p>(2) ①新聞委員会が学校新聞を復活させたことは素晴らしい。</p>	<p>(1) ①30年度入学生への準備はできた。今後もワーキンググループで検討を進める。 ②学習支援の足がかりはできた。支援の必要な生徒の共有化を図り、サポートティーチャーにつなげる。 ③学校内での授業研究は進んだ。今後も授業改善の取組を進める。 ④自己表現検査の変更はできたので、今後は評価の精度を上げていく必要がある。</p> <p>(2) ①生徒の主体的活動は広がってきた。 ②今後とも文化祭が生徒の自己表現、自己肯定感を得的られる場となることを目指す。</p>	<p>(1) ①新校教務規定は30年度の完成を目指す。 ②学習に関する調査等生徒情報の収集と全体での共有化を図り、サポートティーチャーにつなげる。 ③本校のみでなく両校合同の教科会を開き、教科内での共通理解を図っていく。 ④今年度の振り返りを行ってきたので、今後は評価の精度、自己表現検査の実施方法を評価について検討を進める。</p> <p>(2) ①各委員会の年度目標を設定し、達成を促す取組をする。 ②行事等の充実と横須賀明光高校との交流を計画的に進める。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1) 部活動を活性化させ、学校生活への充実感をもたせる。</p> <p>(2) 一人ひとりに応じたきめ細やかな生活指導と生徒支援を行う。</p>	<p>(1) ①部活動の活性化やその活動を支援するための取組を進める。 ②活動成果を地域等に還元する活動を行う。</p> <p>(2) ①理解に基づいた生徒指導を行い、生徒の行動変容を促す指導を目指す。 ②あいさつを促す取組を進める。 ③教育相談体制を充実し、生徒の困り感を早期に把握し適切な支援をする。 ④本校職員として必要な生徒支援に関する研修を実施する。 ⑤新校の生活指導規定や制服等検討をする。 ⑥新校の教育相談や生徒活動について検討する。</p>	<p>(1) ①部活動の入部や活動継続への取組及びその活動を支援するための工夫をする。 ②部活動の成果を地域に還元する活動や中学生等を招いた合同練習など企画を考え、実施する。</p> <p>(2) ①日頃の指導や行事等の事前事後の指導等を通して、自己の行動について生徒に考えさせ、行動の変容につなげる生活指導を進める。 ②生徒も参加する挨拶運動を推進する。 ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用し、ケース会議等で合理的配慮も含め、適切な対応や支援ができるように工夫する。 ④生徒支援に関する研修会を企画・運営する。 ⑤両校で新校の生活指導規定や制服等について検討する。 ⑥両校で新校の教育相談や生徒活動について検討する。</p>	<p>(1) ①入部や活動継続への取組及び活動の支援ができたか。 ②部活動の成果を還元する企画を実施できたか。</p> <p>(2) ①自己の行動を振り返らせ、行動の変容につなげる生徒指導ができたか。 ②あいさつが自発的にできるようになったか。 ③適切な支援ができるように工夫できたか。 ④生徒支援に関する研修会を企画運営できたか。 ⑤生活指導規定や制服の検討はできたか。 ⑥教育相談や生徒活動の検討はできたか。</p>	<p>(1) ①部活動顧問の支援により、1勝を挙げることで、新たな発表やコンクールへの挑戦など対外的な取組が増えた。 ②地域イベント参加や福祉施設への慰問、地元中学生との合同練習会など活躍の場づくりが進んできた。</p> <p>(2) ①行動の変容を促す対話型の生徒指導は定着してきた。特別指導件数は40%減の昨年に比べ18%増だが、服装や髪型、日常生活の指導は職員の共通理解が進み大きく改善された。 ②毎日の挨拶指導の他、全職員による挨拶運動を年5回実施し、うち2回は生徒会生徒も参加した。 ③週1回定例のミーティングにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーにサポートティーチャーが加わり生徒支援の幅が広がった。 ④支援の職員研修会の実施と「支援だより」の発行を行った。 ⑤新校制服の選定及び生活指導規定の作成を行った。 ⑥新校教育相談の骨子案について検討した。</p>	<p>(1) ①②部員不足で対外試合やコンクールへの参加が困難な状況にあるが部員の活躍の場づくりを支援していく。</p> <p>(2) ①なかなか行動の変容につながらない生徒もいるが、根気強く指導する。 ②挨拶運動の継続と生徒主体の運動にシフトしていく方法を検討する必要がある。 ③ミーティングを中心とした支援体制の更なる充実を図っていく。 ④職員の理解だけでなく生徒へのアプローチを検討する。 ⑤⑥生活指導規定や教育相談について両校の生徒の状況を踏まえて協議を進める必要がある。</p>	<p>(1) ②生徒会活動等外部に向けての様々な活動を通して社会性が育ってきている。</p> <p>(2) ①生徒指導については職員が足並みを揃えて指導することが大切であり、それができていると思う。 ②生徒に丁寧に話して理解させることは、対話を大切にすることを教えることでもある。 ③週1回定例のミーティングは非常にいいので継続してほしい。</p>	<p>(1) ①成功体験の少ない生徒に頑張れぬく体験や意欲を喚起させる方法を模索する。 ②部活動の活動の幅は広がってきたので、これを全部活動での対外的な取組活動に広めていくことが課題である。</p> <p>(2) ①卒業時までには育てたい生徒像を学校全体で共有することを更に進める。 ②日常的に挨拶ができる生徒が増えてきた。 ③支援について検討するミーティングが有効に機能し始めた。 ④スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの職員の理解は進んできた。 ⑤⑥新校の生活指導や教育相談についてワーキンググループを中心に検討を進める。</p>	

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月23日3月6日実施)	総合評価(3月9日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が将来を見通して目標を持ち、自立のための努力ができるようなキャリア教育の充実を図る。	(1) 確かな目標を持つことができるように一年次から一貫したキャリア教育を実践する。 (2) 進路指導をより組織的に行う体制をつくる。	(1) 外部資源等も活用し、自己のあり方・生き方、職業観を醸成する系統的な学習を企画・実施する。 (2) ①スクールキャリアカウンセラーと連携した就職指導の体制づくりと環境整備を行う。 ②他学年職員及び他学年キャリア担当で3年生の進路指導をサポートする体制をつくる。 ③両校で新校のキャリア規定等について検討する。	(1) 系統的な学習を企画・実施できたか。 (2) ①就職指導体制や環境整備はできたか。 ②3学年の進路指導のサポート体制はできたか。 ③キャリア規定等の検討はできたか。	(1) 分野別キャリアガイダンス、進学キャンパスツアー、インターシップの活用、ワークによる地元企業説明会など外部資源を活用し、自己の見つめ直しと視野拡大を促し、自己の生き方、職業観を醸成する系統的な学習機会を持つことができた。 (2) ①教職員とキャリアカウンセラーが連携した就職指導の体制が形成されつつある。また、キャリア相談室の整備や職員用進路の手引きの作成を行った。 ②全職員による面接練習を行うなど全学年キャリア担当と3学年がチームを組む体制で3学年生徒の就職指導をサポートした。 ③両校のキャリア規程の比較検討を進め、新校のキャリア規程等の素案を固めた。	(1) 1年生のうちからキャリア教育についての啓発を一層図っていく。 (2) ①教職員とキャリアカウンセラーが情報を共有した指導を更に進める。また活用しやすいキャリア相談室にする。 ②全職員体制で3年生の就職指導をサポートできた。 ③新校のキャリア教育について更に共通理解を図っていく。	(2) ①教職員とキャリアカウンセラーが連携して進路指導にあたる体制を継続・発展させ、生徒へのサポートを更に強化してほしい。 ・卒業生の進路が90%決定しているのは素晴らしい、大きな成果である。	(1) 外部資源の活用によるキャリア教育を展開できた。今後は日常生活指導と進路指導を一体化したキャリア教育を進めていきたい。 (2) ①スクールキャリアカウンセラーと連携した指導体制は進んだ。キャリアカウンセラーのアドバイスを反映した指導を考へていく。 ②他学年のキャリア担当との連携の基礎はできた。今後も連携を強化して行く。 ③新校キャリア規定を含め、キャリア教育の展開について協議を重ねていく。	(1) キャリア教育実践プログラムの見直しを行い、更に系統的な指導をする。 (2) ①キャリアカウンセラーのより一層の活用を図り、生徒一人ひとりに応じた指導ができる体制を強化していく。 ②全職員の協力体制をつくりキャリア教育や進路指導を進める。 ③今後は規定以外の細部についても検討する。
4	地域等との協働	中学校、保護者、地域等に理解され、信頼される学校づくりを進める。	(1) 本校についての理解を得るための情報発信を積極的に行う。 (2) 地域やPTAなどの連携を推進する。	(1) ①新校を含めた本校への理解を促すために中学校訪問や学校説明会を工夫する。 ②学校生活の様子がわかるようにホームページ等積極的な広報活動を行う。 ③在校生保護者に学校からのお知らせの内容がわかるように工夫する。 (2) PTA や地域と連携した活動を行い、相互に交流できる取組を進める。	(1) ①本校への理解は進んだか。 ②生徒の様子を伝える広報活動ができたか。 ③在校生保護者にお知らせの内容がわかるような工夫ができたか。 (2) 相互交流できる取組を実施できたか。	(1) ①本校で実施する学校説明会の2回目を個別相談会として、より個に応じた説明会にした。 ②ホームページにおいて部活動など生徒の活動についての情報発信を行った。 ③保護者へのお知らせ内容をホームページに掲載したり、まち comi メールでお知らせを配付したことを発信する試みをした。 (2) 陶芸教室の他に茶道部による藤棚茶会での地域との交流、料理教室でのPTAと生徒との交流など新しい交流の取組を行った。	(1) ①②大楠高校及び新校についての情報発信を積極的に行っていく必要がある。 ③学校のお知らせを家庭に届けることが困難である。 (2) ・地域やPTAとの交流の場の設定について工夫が必要である。 ・新校に向けてPTA活動の統合が円滑に進むように取り組む。	(1) ①本日のプレゼンテーションを職員に行うと目標の共有化ができ更なる改善につながる。また保護者や地域に発信すれば学校への理解が進むと思う。 ③入学時だけでなくまち comi メールの登録数を増やす工夫をしてほしい。 (2) 統合前に両校PTAの意見交換の場として交流会を持つてほしい。	(1) ①本校への理解を図るとともに新校の情報についても連携し広報する。 ②ホームページ等の内容についての検討をしていく。 ③学校からの情報が家庭に届くための更なる工夫が必要である。 (2) ・学校の資源や部活動等の活用による交流を図っていく。 ・計画的に両校PTAの交流の場づくりとすり合わせを進める。	(1) ①両校の合同学校説明会を実施する。 ②ホームページ等を情報発信の場として活用する。 ③保護者からの意見を聞き、改善策を探る。 (2) ・学校の資源や部活動等の活用による交流を図っていく。 ・計画的に両校PTAの交流の場づくりとすり合わせを進める。
5	学校管理 学校運営	(1) 安全で清潔感のある学習環境をつくる。 (2) 効率的で組織的な学校運営とともに事故や不祥事防止に努める。	(1) ①気持ちよく学べる学習環境を整える。 ②生徒主体の防災研修や防災訓練を行う。 (2) 業務の効率化と事故・不祥事防止に努める。	(1) ①日常の清掃活動に力を入れるとともに美化委員会を活用し環境美化への意識啓発を図る。 ②DIG等生徒主体の防災研修や防災訓練を行う。 (2) ①リーダー・サブリーダーを中心に学年・グループ業務が効率的に行えるように工夫する。 ②マニュアルに従っての確認を複数体制で行うとともに事故防止会議の工夫をする。	(1) ①校内美化は進んだか。 ②生徒主体の防災研修や訓練を実施できたか。 (2) ①リーダー・サブリーダーを中心とした業務が効率的に行えたか。 ②事故はゼロだったが、事故防止会議の工夫はできたか。	(1) ①校内の環境美化は進んできたが、美化委員会の活用が不十分であった。また新校に向けて物品の整理・廃棄を行った。 ②計画的に実施している防災訓練の他1年生でDIG研修を実施した。 (2) ①学年やグループで業務の効率化を進めたが、効率化の進み具合は学年やグループで多少差が生じた。 ②適時に事故防止会議等を実施してきたが、定期テスト答案の処理等については徹底できず、事故ゼロには至らなかった。	(1) ①美化委員会の活用を考えると、横須賀明光高校と連携して移転の準備を進める。 ②必要な研修や訓練を無理なく適時に行うよう計画的に進める。 (2) ①リーダー・サブリーダーの役割分担等を考え、連携を更に図っていく。 ②事故防止に向けての意識啓発と互いのコミュニケーションを図っていく必要がある。	(1) ①生徒への働きかけを工夫する。また統合に向けて施設管理ワキンググループで協議を進める。 ②防災訓練等は計画的に実施できている。生徒の意識が課題である。 (2) ①リーダー・サブリーダーを配置し、更に効率的な運営を考へる。 ②事故は減少している。	(1) ①美化委員会の活動を見直す。また横須賀明光高校との連携を密にし、物品の仕分け等を行っていく。 ②更なる防災意識の向上を図っていく。 (2) ①職員数の減少を踏まえ、重点業務とそうでない業務の仕分けなど更に工夫をする。 ②日常的に事故防止に取り組めるよう意識啓発の仕方を工夫する。	